

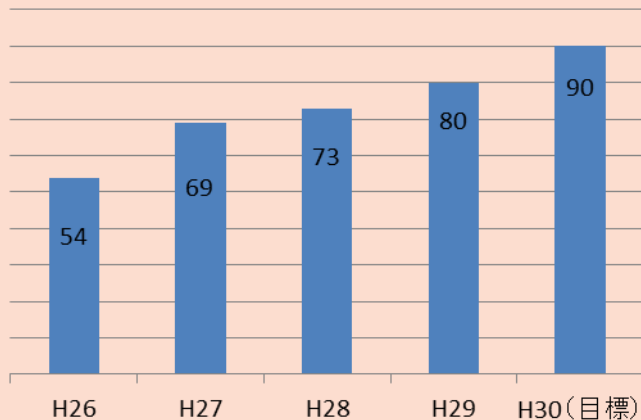
- 東京オリ・パラに向けたGAP取得要求、輸出へのオーガニック、ハラルなどの認証要求が高まっている。
- 県として長年取り組んできた「環境にやさしい」、「食の安全・安心」をもとに、ISO、GAP等の導入の支援をすすめている。
- 「10年後に勝ち残る茶業経営」をテーマに継続的な経営・発展に生かせるGAPの導入を心がけている。

具体的な成果

- 1 勝ち残るための第3者認証の取得
J-GAP認証を基準とする需要ニーズの増加への対応や、輸出に必要なマーケティング力獲得のため、何らかの認証を取得することが有効として、支援を行う。

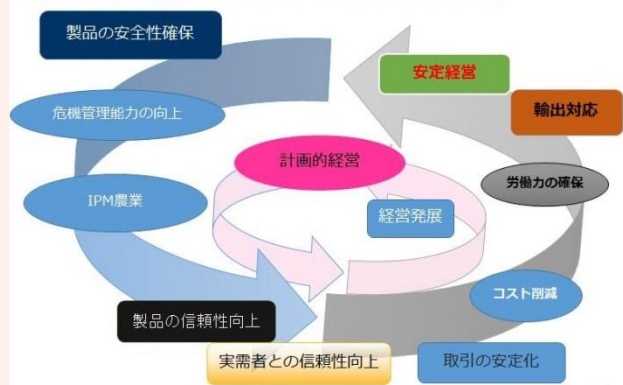
認証取得件数

H30年度目標 90



- 2 勝ち残る茶業経営の育成
GAP指導の目的は、継続的な農業経営発展。経営にいかせるGAP導入に取り組んでいる。

GAP導入で普及が目指すべき経営体の育成



普及指導員の活動

- 安全安心な伊勢茶づくり運動としてスタートし、茶工場の工程管理指導を徹底
↓
JGAP協会の茶の認証規格開発に応じて、栽培行程管理へと発展マニュアル作成や取得支援活動に取り組んでいる

- 月1回のワークショップを基本として、十分な議論、検討を重ねて、個々の経営に応じた生産工程管理手順を作成。
→経営に生かせるGAPを導入。



- 営農指導員への研修等、GAP指導人材育成を強化

普及指導員だからできたこと

- GAP認証を目的として急がず、経営に実効性のある生産工程管理手順作成に、十分な検討を重ねている。
- 現地推進支援として指導者の養成を行った。

茶のGAP等認証の導入支援

活動期間：平成27～30年度

1. 取組の背景

三重県の茶栽培面積、生産量、産出額はいずれも全国第3位となっています。農家の組織化、大規模化、機械化も進み、コスト削減も取り組んできましたが、それ以上の茶葉の価格低迷など、厳しい経営環境になっています。

そこで、27年度からの普及計画は「10年後も勝ち残れる茶業経営体の育成」として、経営発展に意欲的な経営者の育成・支援を課題としています。そのなかで、それを進めるツールとして第三者認証取得を位置づけ、JGAPやGLOBALGAP認証取得支援に取り組んでいます。

2. 活動内容（詳細）

三重県では従来から「環境にやさしい安全安心な伊勢茶づくり運動」として、食品製造業としての保健所への届け出、生産履歴記帳の徹底、異物混入防止対策等の衛生管理指導に取り組んできました。モデル経営体を育成し、製茶工場の工程管理手法の導入、製茶工場におけるGMPマニュアルを作成・実践し、ISO22000認証の取得など進めてきました。

GAP認証をすすめるにあたり、茶普及課の指導員4人のうち3人がJGAP指導員研修を受講し、GAPの推進・指導にあたっています。

普及活動におけるGAP指導の目的は、農業者の継続的な経営安定と発展です。このためには生産物の安全性と高収益性確保は勿論のこと、長期に渡り生産を継続するために生産環境の保全や労働者の健康管理や労働安全が欠かせません。

GAP認証取得を目指す農業者は認証取得を急ぐ方も少なくありませんが、実際の支援では月1回のワークショップを基本として1年間をかけて個々の経営体に合った管理手順書づくり、圃場、作業場などの危害把握や改修を行い、経営で生かせるGAPを心がけています。



ワークショップ

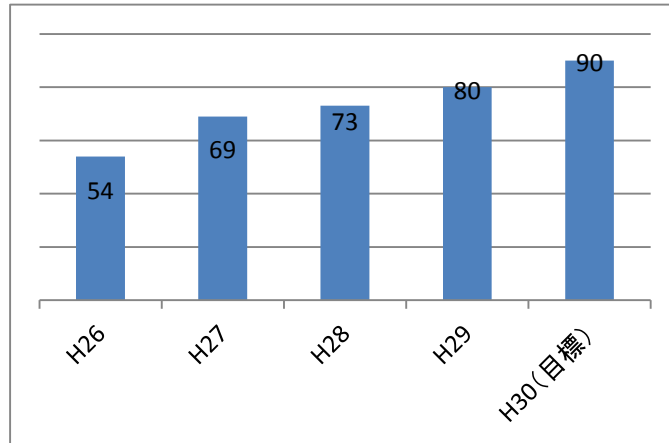


JGAP 研修会

3. 具体的な成果

GAP、JAS 有機等の認証取得を支援しています。

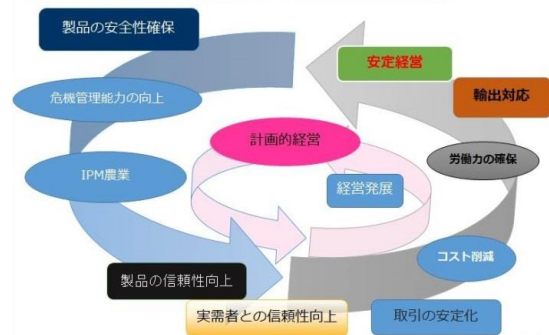
認証取得数



4. 農家等からの評価・コメント

短期でなく長期計画として事業体への支援を検討していること、単なる第三者認証取得にとどまらず、それを経営管理の改善につなげることを課題としている点がよい。（外部評価委員コメントから）

GAP導入で普及が目指すべき経営体の育成



5. 普及指導員のコメント

「お金かけてGAPを取得しても茶の価格に繋がらないのでは」と言われる。我々も認証取得が目標にならないように、経営管理のツールとしてGAPを使いこなすように意識づけしている。

また、「機械の点検項目を行うことで機械が壊れずに済んだ」、「農薬の在庫管理で効率化できた」などの声もある。GAPに取り組むことで、経営の効率化、さらには、製品の信頼性向上、安定生産、輸出などのサイクルで経営発展に繋がればと思う。

中央農業改良普及センター 革新支援専門員

6. 現状・今後の展開等

営農指導員など現場でGAPを推進できる人材の育成に取り組み、GAPの推進体制を強化して取り組んでいく。